

ハワイ大学ヒロ校体験記

武村涼佳

私は2022年8月から10ヶ月間、ハワイ大学ヒロ校へ留学をしました。その留学期間の中で特に印象に残った2つのエピソードについて紹介します。

1つ目は、日本と異なる授業形態です。授業は主に、ハワイ文化、ジェンダー論、コミュニケーションなど、興味関心のあるものを中心に履修を組みました。大抵20人前後で構成されており、発言が常に求められる環境でした。内容理解に苦しんだり、発言できない自分に焦ったりするなど、辛く感じる事がしばしばありました。しかし、教授に個別で面談を頼むことや、自習の時間をとることなど、プラス a の学習を意識することによって徐々についていけるようになりました。後半ではクラスメイトと雑談までできるようになり、語学力の向上と精神的成長を感じました。特に印象に残っているのはContemporary Island Musicという授業です。ハワイの曲をウクレレで演奏するだけでなく、曲が生まれた背景や歌詞の表現を分析し、ハワイの歴史やコミュニティの特徴についてディスカッションを行いました。世界各地より集まった様々な背景を持つ学生の視点から、多民族で構成されたハワイ文化を理解できたことは貴重な体験でした。

2つ目は生活そのものです。ハワイ島は豊かな自然が溢れており、キャンパス内に野生のニワトリが歩いているような環境で生活を送りました。大学では月に数回、ミニトリップが開催されていて、積極的に参加しました。美しい自然とアクティビティでリフレッシュし、各国から来た留学生や現地学生と交流する機会になりました。また、留学期間中にマウナロアという世界最大の活火山で40年ぶりの大きな噴火が発生しました。マグマの光が反射して空が赤く光り、溶岩が流れ出ている非現実的な光景を目にし、自然の神秘や恐ろしさを思い知らされた経験となりました。

ハワイ大学での学びは世界とつながる感覚や、挑戦することの楽しさを感じる経験となりました。たくさんの方々を支えていただいたからこそ得た学び、経験を決して無駄にしないよう、この先も挑戦と努力を大切にしていこうと思います。

私は2023年8月から4か月間、ハワイ大学ヒロ校に留学していました。渡航前には、慣れない手続きをすべて英語を使って独力で進めなければならないという苦労や、英語外部試験の基準スコアを確実にとらなければならないというプレッシャーがありましたが、周りの人々に支えられ、無事留学を叶えることができました。

ハワイ大学での授業で、特に印象に残っているクラスは、“Kuleana & Community”という、ハワイ島でのフィールドトリップを通してハワイについて学び、ハワイと自分のつながりについて考えるクラスです。何より私が驚いたことは、ハワイに住んでいる人々がハワイのことをよく知っていて、ハワイ愛がととても強いということです。これは、ハワイへの理解のためだけでなく、何かとのつながりを感じるためには、自国である日本のことをもっと知るべきであるということを感じさせてくれました。

授業に出席するだけでなく、大自然を生かした様々なアクティビティにも参加しました。マウナケアに満天の星を見に行ったり、キラウエア火山が噴火した時にはその異観を目の当たりにしたり、美しいビーチで野生のウミガメに遭遇したり、どれも日本では絶対に体験できないことを体験できたと感じています。

半年間という限られた時間ではありましたが、ハワイ大学ヒロ校に留学したこの半年間は人生で一番充実していたと言っても過言ではないくらい、自分の人生や考え方に大きく影響を与える時間となりました。この留学の機会を与えて下さったハワイ大学ヒロ校、TN国際貢献奨励奨学金を授与して下さい下さった立教大学、留学に関する手続きの相談に親身に乘って下さった関根瑞恵さん、Todd Shumwayさん、そして支えてくれた家族や友達には感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちを忘れず、そしてこの経験を無駄にしないよう、今後も精進していきたいと思っております。